

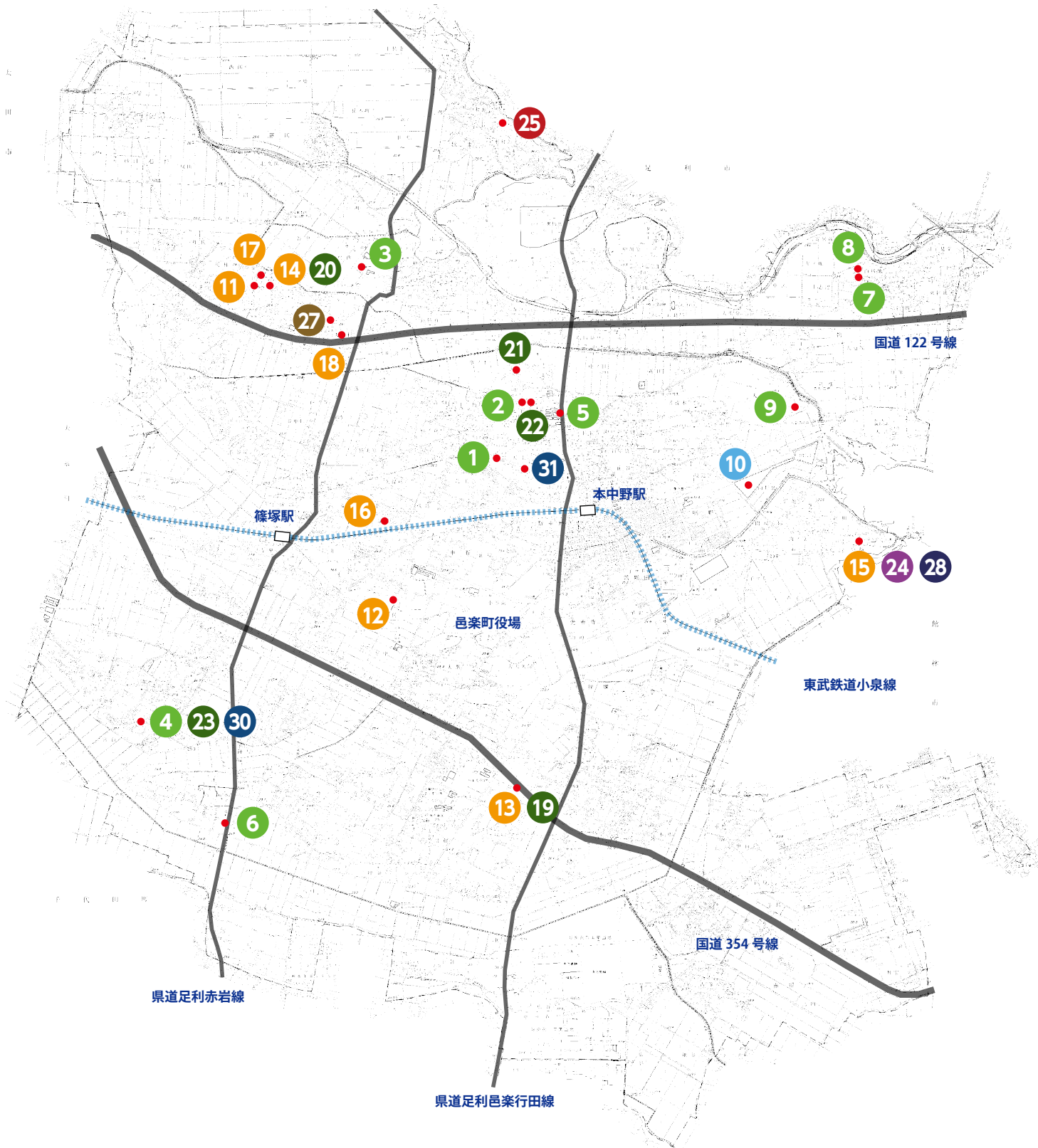
# 邑楽町の文化財

心に邑楽をふるさとに文化を





# 邑楽町指定文化財マップ



# 邑楽町指定文化財一覧表

① 国指定天然記念物	永明寺のキンモクセイ	2
② 県指定天然記念物	神光寺の大カヤ	2
③ 県指定天然記念物	高島小学校のトウグミ	3
④ 町指定天然記念物	長柄神社の桜「エドヒガン」	3
⑤ 町指定天然記念物	中野小学校のマツ	4
⑥ 町指定天然記念物	五位堂のシラカシ	4
⑦ 町指定天然記念物	恩林寺のイチョウ	5
⑧ 町指定天然記念物	恩林寺のケヤキ	5
⑨ 町指定天然記念物	アリマシノ	6
⑩ 町指定天然記念物	中野沼と水生動植物群	6
⑪ 町指定重要文化財	石打光明寺付近出土板碑	7
⑫ 町指定重要文化財	バテレン遺跡出土品	7
⑬ 町指定重要文化財	行人塚出土遺物(錫杖・古銭)	8
⑭ 町指定重要文化財	中世灰釉陶器瓶	8
⑮ 町指定重要文化財	弥生式土器	9
⑯ 町指定重要文化財	中世陶器の壺と古銭	9
⑰ 町指定重要文化財	縄文時代の石皿	10
⑱ 町指定重要文化財	松本23号古墳出土銀象嵌大刀	10
⑲ 町指定重要文化財	享保二十一年銘行人百年忌石碑	11
⑳ 町指定重要文化財	慶徳寺山門	11
㉑ 町指定重要文化財	十三坊塚北口の庚申塔	12
㉒ 町指定重要文化財	志士の碑	12
㉓ 町指定重要文化財	長柄神社本殿附安永八年棟札	13
㉔ 町指定重要文化財	脇差鶉古城打	13
㉕ 町指定重要文化財	大雲文龍「水色幽玄」の書跡	14
㉖ 町指定重要文化財	神谷家文書	14
㉗ 町指定史跡	松本古墳群3,9,10,11,12,13,20号古墳	15
㉘ 町指定史跡	鶉古城	15
㉙ 町指定重要有形民俗文化財	中野餅一式	16
㉚ 町指定重要無形民俗文化財	長柄神社の里神楽	16
㉛ 町指定重要無形民俗文化財	天王元宿祇園祭り	17

表紙:長柄神社本殿彫刻



# 1 永明寺のキンモクセイ

植物

▶所在地 邑楽町大字中野 永明寺地内 ▶指定 昭和12年6月15日



このキンモクセイは、樹齢約750年(推定)で、昭和12年に国の天然記念物に指定されました。樹高16m、幹周り3.3m、枝張り東西18m、南北14m、幹が3分枝した傘状の老樹名木でしたが、昭和41年の台風で倒れてしまいました。

その後、根元から出たひこばえが成長し、現在8mに達しています。永明寺は元弘3年(1333)、<sup>むそうこくし</sup>夢窓国師の開基と伝えられていて、キンモクセイもその頃植えられたようです。

秋には小さいオレンジ色の花を無数に咲かせ、訪れる人々を楽しませてくれます。

# 2 神光寺の大カヤ

植物

▶所在地 邑楽町大字中野 神光寺地内 ▶指定 昭和54年10月2日



この大カヤは樹齢約770年、樹高21m、幹周り5.7m、枝張り東西20m、南北23m、根周り15m、地上6mのところまで20枝に分かれています。

カヤはイチイ科の常緑針葉樹で、種子から採取する油は、食用や整髪用にされます。材はかたく、碁盤や建築、器具材、彫刻、造船などに使われます。

現在神光寺がある所は、新田義貞<sup>なかのとうないぎえもん</sup>の重臣であった中野藤内左衛門景春がかつて居城していた中野城がありました。大カヤの推定樹齢から、景春の父景継が城を構えた文永2年(1265)には、神光寺の大カヤは存在していたと思われます。

# 3 高島小学校のトウグミ

植物

▶所在地 邑楽町大字藤川 高島小学校地内 ▶指定 平成7年3月24日



このトウグミは高島小学校が創設されたときから100年、子どもたちの思い出の木として愛されてきました。

樹高6m、幹周り1.64m、枝張り東西8.4m、南北7.6m、根周り2.7mで根張りが良く、枝も良く伸び、樹形は均整がとれていて、とても美しいです。4月中ごろ、淡黄色の花をつけ、田植えごろ赤い実をつけます。

平成18年と令和2年の二度にわたり、木を腐食、劣化させるキノコが、幹の根元に発生してしまったので、保護養生のための外科的治療が施されました。

平成7年に、群馬県の天然記念物に指定されています。

# 4 長柄神社の桜「エドヒガン」

植物

▶所在地 邑楽町大字篠塚 長柄神社地内 ▶指定 平成元年11月28日



邑楽郡の一の宮である長柄神社の歴史を物語るのがこの「エドヒガン」です。樹齢400余年といわれ、樹高15m、幹が2本に分かれ幹周りが2.2mと2.25m、枝張りは東西13.8m、南北15.8m、根周り5.75mの巨木です。毎年他の桜よりも早く、ソメイヨシノよりも色の濃い、小さな花をたくさんつけます。

エドヒガンは、桜の中では最も寿命の長い品種の一つです。漢字では「江戸彼岸」と書きますが、春のお彼岸のころに花を咲かせることからこの名が付けました。



# 5 中野小学校のマツ

植物

▶所在地 邑楽町大字中野 中野小学校地内 ▶指定 平成5年7月20日



中野小学校東門にあるクロマツは、明治33年に光善寺から移植されたものです。中野小学校のマツの風景が、館林市出身の版画家藤牧義夫ふじまきよしおの作品に残されています。藤牧義夫の父が中野尋常高等小学校に赴任していたことが縁で、スケッチが描かれました。藤牧義夫は、父亡き後、有縁の土地を訪ね、昭和2年「三岳画集」(三岳は父の雅号)という私家本を作っています。

当時から、子どもたちの成長を見守ってきたクロマツは、変わらぬ学校のシンボルとして、今でも威容を誇っています。

# 6 五位堂のシラカシ

植物

▶所在地 邑楽町大字篠塚696 ▶指定 平成5年7月20日



南北朝時代の武将、細谷右馬助秀国ほそやうまのすけひでの墓所が五位堂ごにんどうです。

シラカシとはドングリがなる木の一つです。五位堂のシラカシは、樹齢500年、樹高18.5m、幹は4本に分かれ、幹周りはそれぞれ2.6m、1.6m、0.6m、0.9m、枝張り東西16.5m、南北18.1m、根周り6.6mです。

五位堂の中には、阿弥陀如来の石像と男女一對の木像如来、千体仏が安置されています。千体仏は子宝と安産を恵む仏として信仰を集めてきました。現在でも、木製の小さな仏像を借り受け、子宝に恵まれたら倍にして返す習わしがあります。

# 7 恩林寺のイチョウ

植物

▶所在地 邑楽町大字鷄 恩林寺地内 ▶指定 平成5年7月20日



鷄の恩林寺は、北条一門の菩提を弔い、再起を祈願するために造られたといわれています。その恩林寺にあるイチョウは、樹齢300年、樹高28m、幹周り6.1mの邑楽町で一番大きく姿の良いイチョウです。

イチョウの葉は燃えにくく、幹や枝にも耐火性があるため「火伏ひふせの木」と呼ばれ、街路や学校に多用されています。また、約2億年前の中生代ジュラ紀に栄え、現在まで種を絶やさずに続く歴史の古い木なので「生きた化石植物」と呼ばれることもあります。自然の植生はほぼなく、IUCN(国際自然保護連合)のレッドリストに野生絶滅危惧種として登録されています。

# 8 恩林寺のケヤキ

植物

▶所在地 邑楽町大字鷄 恩林寺地内 ▶指定 平成5年7月20日



恩林寺のケヤキは、樹齢350年、樹高28m、幹周り4m、枝張り東西23.8m、南北23.1mの巨木です。ケヤキの名は「けやけき木」が由来とされ、「けやけき」には「目立つ、ひときわ優れている」という意味があります。

ケヤキは空へ向かって扇型に広がり、下枝(横枝)が少ないため、人が集う場所に木陰を作る木として使われます。花は4~5月ごろ、葉が出る前に開花しますが、花や果実は高い場所にできるため観察しにくく、人目に触れることはまれです。

秋の紅葉が美しい樹木で、個体によって色が異なり、赤や黄色に紅葉します。



# 9 アリマシノ

植物

▶所在地 邑楽町内 ▶指定 平成10年2月26日



アリマシノは兵庫県有馬郡道場町(現兵庫県神戸市)を基準産地とするササで、高さが1~2mあり、葉は長い楕円状の披針形ひしんけいをしています。上面に長毛がまばらに出るか無毛で、下面には軟毛が密生しています。

群馬県では邑楽町で初めて発見されました。県内唯一の自生地となっているため、極めて分布の少ない貴重なササの一種として、邑楽町の天然記念物に指定されました。

群馬県緑化センターでは、移植保存されているアリマシノを見ることができます。

# 10 中野沼と水生動植物群

動植物群落等

▶所在地 邑楽町大字中野5459他 ▶指定 平成11年7月28日



中野沼の周辺は、かつては広大な湿地帯で、ウネと呼ばれる小さな池が点在し、動植物の宝庫でした。しかし、戦後の食料増産に伴う干拓事業などで湿地帯は減少し、姿を変えて行きました。

大きな改変を受けてきた中野沼でしたが、平成10年の調査によって、貴重な動植物の生息が判明し、中野沼全体の保護と自然環境を守る目的で、平成11年に邑楽町の天然記念物に指定されました。貴重種の中にはガガブタ(写真円)やマミズクラゲ(写真右下)などが生息し、多様で豊かな生態系が保たれています。

# 11 石打光明寺付近出土板碑

考古資料

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 昭和63年11月25日



板碑とは、中世の供養塔(塔婆)のことで、死者への供養や来世での安寧を願い建てられました。関東地方では主に秩父産の緑泥片岩と呼ばれる青みがかった石が使用されます。

この板碑も緑泥片岩製で、阿弥陀如来を表す梵字を蓮の台座上に刻んでいます(阿弥陀一尊種子)。中央には正安元年(1299)10月25日の紀年銘があり、その両側には梵字で随求菩薩真言を二つに分けて記しています。紀年銘上の一字は「父」と思われ、父親の供養が造立の趣旨となりそうです。

長さ142cm、幅34.5cm、厚さ4.5cmで、丁寧に作られた大型の優品です。

# 12 バテレン遺跡出土品

考古資料

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 昭和63年11月25日



中野字前原すわっぱらの諏訪原には、かつて猿楽を催した跡と伝えられる円形の土壇が残っていました。地元ではその周辺を「バテレン山」と呼んでいます。ここから出土したと伝えられる遺物は、天目茶碗2点、青磁大皿1点、ガラス小瓶1点、長方形の伊万里青磁皿1点になります。

中世のものとしては、瀬戸・美濃系陶器で古瀬戸後期段階に相当する天目茶碗と中国からの貿易陶磁器で、龍泉窯系と思われる青磁大皿になります。ともに14世紀末から15世紀前半ごろと推定され、特に小型の天目茶碗は、ほぼ完形で状態が良く、群馬県内でも希少な資料となります。



## 13 行人塚出土遺物(錫杖・古銭)

考古資料

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 平成3年5月30日



平成2年、国道354号線の改良工事に伴う行人塚の発掘調査が実施され、人骨、錫杖、古銭、数珠玉などが出土しました。出土した錫杖は、杖の頭部で、長さ13.8cm、遊環と呼ぶ輪の直径は2.5cmで、6個はめ込まれています。中心軸頭部の輪頂と呼ぶ部分は、五輪塔の形を表しています。その下の中心軸も、五輪塔もしくは宝篋印塔をかたどっています。

人骨は、40～50代後半の男性と推定され、出土した錫杖、数珠玉などと共に行人塚の言い伝えを彷彿させる遺物の内容となっています。

## 14 中世灰釉陶器瓶

考古資料

▶所在地 邑楽町大字石打 慶徳寺蔵 ▶指定 平成4年11月26日



尾張瀬戸窯で生産されたと考えられる、灰釉のかかった瓶子と呼ばれる陶器です。慶徳寺の墓地改修工事で出土しました。口縁部は欠損していますが、現存高は22.2cm、口縁突帯の径は5cmです。体部の最大径は上位にあり17cm、底部の直径は、9.4cmになります。体部の表面には、櫛描文と篋描による梅花を表した画花文が施されています。

瓶子は、酒などの液体を保存する容器ですが、骨臓器として再利用され、中に火葬された壮年の人骨が入っていました。

形や文様から14世紀中ごろから15世紀に作られたと思われます。

## 15 弥生式土器

考古資料

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 平成10年2月26日



多々良沼に突き出た東西に延びる半島状台地の東端、現在の多々良沼公園内で発見されました。

小型の壺形土器で、高さは9cm、口縁部径は6.8cm、体部最大径は9cm、底部は平底で、直径は4.9cmです。頸部には、三条の平行する沈線を右回りに巡らせています。また、その下に縦方向に短い沈線を一回り刻むように施しています。体部の内外面は、ハケ目による調整を施し、外面はその後にナデによる調整で仕上げます。

弥生時代の櫛描文に類似する文様などから弥生時代末期のものと考えられ、邑楽町唯一の弥生時代資料となります。

## 16 中世陶器の壺と古銭

考古資料

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 平成10年2月26日



出土地は中野字埴掘で、農作業中に偶然発見されました。中世の常滑焼とされる壺の中には、中国から輸入された17,991枚を数える銭貨が詰まっていた。銭貨の総重量は、70kgになります。銭貨は、中国北宋から明代に作られたもので30種類ほど確認できます。室町から戦国時代にかけて、全国各地で地中に銭貨を埋める行為がはまりました。なぜ大量に埋められたのか、定説はありません。儀式のためや備蓄するためなどの説があります。

壺の高さは、43cm、口縁部径12cm、体部最大径36cmで、16世紀ごろのものと考えられます。



# 17 縄文時代の石皿

考古資料

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 平成10年2月26日



その昔「調理して食べる」ことができるようになった人たちは、栄養のある植物の実をすりつぶして粉にし、こねたり延ばしたりして食事をしました。そのとき製粉に使ったのが石皿です。植物の実などを磨る、敲く、押しつぶすため、磨石や敲石と組み合わせて使用します。

この石皿は長さ54cm、幅33cm、厚さ13cmです。楕円形に近い形で、中央のすりつぶす面(磨面)はくぼんでいます。磨面の三方向には縁が巡り、縁辺との境は明瞭で、残りの一方は縁が巡らず、片口状に整えられています。また、縁の上面には所々に小さなくぼみが見られます。

# 18 松本23号古墳出土銀象嵌大刀

考古資料

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 平成10年2月26日



松本古墳群の23号古墳は直径12mの円墳で、平成元年には開発に伴う発掘調査が行われました。横穴式石室の基部が確認され、石室内から金銅製耳環、鉄鏃、大刀、鏝などが出土しました。遺物構成から6世紀後半ごろの古墳と考えられます。

その後、平成6年に大刀のさびを止めるため、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保存処理を依頼したところ、一つの大刀に付属する鏝、鍬、柄縁金具、鞆尻に銀象嵌が施されていることが判明しました。

鏝の周縁部には「の」字状の渦巻文が、側面には二重の半円文が上下交互に象嵌されています。

# 19 享保二十一年銘行人百年忌石碑

建造物

▶所在地 邑楽町大字狸塚1320-4 ▶指定 平成3年5月30日



行人塚の行人とは、修行をする者のことで、修験者などを指します。言い伝えでは、行人が生きながら塚の中に入り、ひたすら万民の安堵を祈り続け命が絶えたとあります。発掘調査では行人のものと思われる人骨や錫杖などが出土しました。

石碑は享保21年(1736)に、行人の入定後100年の供養で建てられたとされ、富士山を表す胎蔵界大日如来の梵字と「六根清浄為菩提百年忌修」の文字が刻まれています。

この行人塚は、富士山信仰の組織である富士講の先達との関わりがうかがえます。

# 20 慶徳寺山門

建造物

▶所在地 邑楽町大字石打 慶徳寺地内 ▶指定 平成4年11月26日



慶徳寺は中世に栄えた正伝寺の跡に、天正元年(1573)、鉄翁霜金和尚によって開かれました。

この門も禅宗独特の楼門(2階建ての門)造りで、すでに400年を超えています。乾燥地であることと管理も良いため、寺の創建当時の姿で残っています。階上の中央に閻魔大王を置き、脇には彩色の十王を従えています。

一本の柱、一本の桁、いずれも仏教の浄土思想に基づいて組み上げられた、いわゆる極楽浄土に入る門です。



## 21 十三坊塚北口の庚申塔

建造物

▶所在地 邑楽町大字中野1823地先 ▶指定 平成4年11月26日



十三坊塚北口の庚申塔には、病魔・病気を払い除くといわれる青面金剛像と、謹慎の態度を表す三猿が彫られています。

60日に一度めぐってくる庚申の日に眠ると、人間の体内にいると考えられていた三尸という虫が体から抜け出し、天帝にその宿主の罪悪を告げ寿命を縮めると言い伝えられていました。そのため、この三尸が体内から出られないように、集団で眠らずに過ごす庚申待の風習が行われていました。

十三坊塚ではこの集まりを「寄せ戸」と言い庚申様にお供えをあげ、夜通しお祭りをしていました。

## 22 志士の碑

建造物

▶所在地 邑楽町大字中野 神光寺地内 ▶指定 平成4年3月25日



享保3年(1718)、困窮の極みに達した農民たちが年貢減免を求めて大挙し江戸へ上る途中、憤る農民たちを説得し、代わりに藩邸に至り、哀訴嘆願をした名主の一人が中野村名主竹岸武兵衛です。この結果、農民の要求は達せられましたが、翌年その行為は御法度の直訴に準じるとし、中谷村(現明和町)の名主恩田佐吉、田谷村(現館林市)の名主小池藤左衛門と共に、処刑されてしまいました。

これが「館林騒動」といわれるもので、このとき領民を守るため犠牲となった三人の名主を「享保の三義民」として後世に伝えているのが志士の碑です。

## 23 長柄神社本殿附安永八年棟札

建造物

▶所在地 邑楽町大字篠塚 長柄神社地内 ▶指定 平成10年2月26日



長柄神社は、正一位の神階を持つ邑楽郡一の格式高い神社です。現在の建物は、拝殿・幣殿・本殿からなり、本殿に見事な彫刻が施されています。本殿内部の棟札から、安永8年(1779)に建てられたことが分かります。大工は、竜舞村の町田兵部とあり、群馬県指定重要文化財の桐生天満宮を建てた同一人物と推測されます。

本殿側面の彫刻は、中国の故事を題材とし、立体的で装飾性に富んだ優れたものです。彩色されない無垢材のままの彫刻で、腕のよい彫物大工の作品です。同時期の妻沼聖天堂や桐生天満宮の彫刻につながる系譜が浮かび上がります。

## 24 脇差鶉古城打

工芸品

▶所在地 邑楽町 個人蔵 ▶指定 平成10年2月26日



鶉古城には「鶉古城打」と呼ばれる刀や脇差が作られていたという重要な歴史があります。

脇差「鶉古城打」には「康継以南蛮鉄、於上州鶉古城作之」の銘があります。康継とは、徳川家康、秀忠父子に仕えた刀鍛冶で、「康」の一字を賜り、作刀に葵御紋を切ることを許された幕府御用鍛冶のことです。刀銘の康継は、三代目康継を後見人として支えた康意とされています。

鶉新田の「天狗屋敷」と呼ばれる所に刀鍛冶が住んでいたとの言い伝えがあります。脇差「鶉古城打」は、この言い伝えが本当であることを示しているかもしれません。



# 25 大雲文龍「水色幽玄」の書跡

書跡

▶所在地 邑楽町大字秋妻 清岩寺蔵 ▶指定 平成4年11月26日



大雲文龍は、関東に曹洞宗を広めた人物で、戦国時代から江戸初期を代表する書家でもありました。後陽成、後水尾の両天皇に書を指南し、朝廷から紫衣と佛日金蓮禅師の称号を受けました。

秋妻の清岩寺は、この大雲文龍によって開かれ、「水色幽玄」の書跡が残されました。草書で書かれた四文字は大胆な書きぶり、「色」「玄」などに文龍の書の特徴が表れています。

また、浦和市国昌寺(現埼玉県さいたま市)、鴻巣市安竜寺(埼玉県鴻巣市)に文龍の書があり、それぞれ市の指定重要文化財になっています。

# 26 神谷家文書

古文書

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 昭和63年11月25日



地域の歴史を今に伝える近世文書は、私たちの身近に存在しています。この神谷家文書も、江戸時代の中野村や光善寺村の様子を伝えてくれる貴重な古文書の一つです。

村の土地台帳である水帳、村単位で年貢を賦課した年貢割付状、年貢を納めた後に発給された年貢皆済目録、領主から村に宛てた達しを村役人が書き留めた御用留、お堀の藻刈りや鉄砲稽古を周知した回状などの文書が見られます。用水に難渋しているなどの願書もあり、水に苦心した様子がうかがえます。

この神谷家文書は、江戸時代から明治初期の古文書群です。

# 27 松本古墳群3.9.10.11.12.13.20号古墳

古墳

▶所在地 邑楽町大字石打1126 他 ▶指定 昭和63年11月25日



石打台地の東西1km、南北300mの範囲に、24基の古墳が残っています。中でも八王子神社古墳が最大で60mほどの前方後円墳と推定されています。それ以外はほとんどが、古墳時代後期の円墳です。

調査が行われた古墳は、松本23号古墳と毘沙門古墳で、共に川原石を小口積みにした横穴式石室を持つ円墳です。23号古墳からは銀象嵌大刀、鉄鏃、金銅製耳環が出土し、毘沙門古墳からは金銅製耳環、水晶製切子玉、碧玉製管玉、ガラス小玉などが出土しました。この出土遺物などから松本古墳群は、6~7世紀にかけて作られたと考えられます。

# 28 鶉古城

城館跡等

▶所在地 邑楽町大字鶉新田6-1 他 ▶指定 昭和63年11月25日



鶉古城は、多々良沼に突き出た半島状の台地を利用した城です。鎌倉後期の宝篋印塔の一部や室町期の五輪塔、板碑などが残っています。

鎌倉末期、逃れてきた北条泰家(慧性)とその弟荒間朝春が城を築いて居住したという言い伝えがあります。その後、戦国時代には小曾根玄番允正好が城主でしたが、天正18年(1590)に廃城となりました。

『群馬県古城址の研究』によると東西二郭に分かれる構造で、南北に伸びる土塁と堀切により、台地を区画しています。西側の土塁は残りが良く、高さが3m、下部の幅が10mになる大規模なものです。



# 29 中野絣一式

生産・生業用具

▶所在地 邑楽町教育委員会蔵 ▶指定 平成10年2月26日



中野絣とは、江戸時代の終わりごろから明治、大正、昭和にかけて中野村を中心に広い地域で生産されていた木綿絣織物です。大正時代にかけては「西の大和絣(奈良県)、東の中野絣」と呼ばれ、日本を代表する夏向き木綿白絣として知られていました。主な生産方法は、賃機制度です。これは、機屋から加工された原料や機具を借り受け、自宅で機織りをして織賃を得るものです。

当時の中野村は活気に満ち、中野銀座と呼ばれる繁華街がにぎわっていました。しかし、戦中の綿織物統制や生活様式の変化で、中野絣の生産は、昭和30年ごろに衰退しました。

# 30 長柄神社の里神楽

風俗習慣

▶所在地 邑楽町大字篠塚 長柄神社地内 ▶指定 平成16年1月27日



「長柄神社の里神楽」は江戸時代後期ごろから伝わる里神楽(民間に広まった神楽)です。大泉町指定重要無形文化財である「吉田西里神楽」は、長柄神社から伝えられました。戦後もなく途絶えていた「長柄神社の里神楽」は、平成11年に邑楽町里神楽獅子舞保存会が中心となり復活しました。毎年、長柄神社の春秋例大祭に奉納されています。

演目は「大蛇退治の舞」「鬼退治の舞」「種蒔きの舞」「鯛釣りの舞」「天の岩戸開きの舞」「刀鍛冶の舞」「ひょっとこおかめの子守子育ての舞」など9演目があります。

# 31 天王元宿祇園祭り

風俗習慣

▶所在地 邑楽町大字中野天王元宿 ▶指定 平成27年4月21日



天王元宿祇園祭りは、疫病除けや家内安全などを願う目的で、7月15日(現在はその日に近い日曜日)に行われています。天王様の社殿には、古くから疫病除けといわれる赤・青二体の獅子頭が飾ってあります。祭りでは、この獅子頭を先頭に天王元宿の家々を回り、悪疫退散のお祓いをします。昭和30年ごろまでのお祓いは、各家の庭を右回り、次の家は左回りと、家ごとに交互に回りました。

天王元宿の祇園囃子は、江戸時代末期から明治時代初期にかけて、太田市沖之郷町から伝えられたとされています。祇園囃子の伝承者は、一時数名になり存亡の危機を迎えたことがありましたが、平成10年4月、天王元宿祇園囃子を守る会が発足し、見事復活しました。

## 邑楽町の文化財

平成8年3月31日初版発行  
令和3年3月27日改訂版3版発行

編集・発行 邑楽町教育委員会  
群馬県邑楽郡邑楽町大字中野2570-1  
TEL0276-88-5511  
印刷 ジャーナル印刷株式会社





邑**楽**町教育委員会